

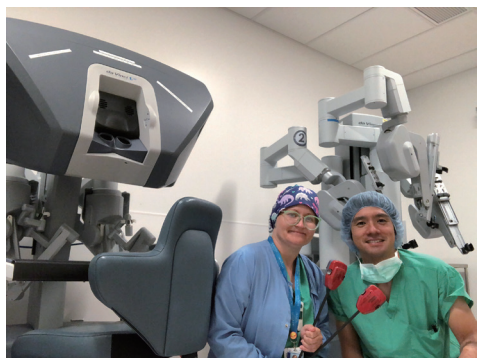
先輩に続け



Nationwide Children's Hospital
小児外科クリニックフェロー
矢田 圭吾 (やだ けいご)



ハワイ大学留学(大学6年生時)(左が筆者)



Nationwide Children's Hospitalで小児ロボット手術を学ぶ



ザンビア僻地での巡回診療 (下段の右から三番目が筆者)

米国臨床留学への憧れを抱いた学生時代・米国医師資格の取得

大学6年生の時、ハワイ大学医学部で6週間の臨床実習を行う機会を得ました。この経験を通して、日本と米国の医療教育システムの違いに大きな衝撃を受け、米国臨床留学を目指して、大学6年生から約7年間かけて米国医師資格(USMLE Step 1, 2)を取得しました。

日本での臨床経験と米国臨床留学の準備

2007年に徳島大学を卒業したのち、沖縄県の中頭病院で2年間の初期研修・3年間の外科研修を行いました。2012年に、かねてから希望していた小児

外科の研修を行うべく、母校の徳島大学小児外科に入局しました。小児外科専門医・医学博士号を取得後、2017年から米国臨床留学の準備を開始しました。アメリカ小児外科学会のホームページを参照しつつ、米国中の小児病院にメールを送り、2018年からオハイオ州にあるNationwide Children's Hospital小児外科のクリニカルフェロー(専門研修医)として無事採用されました。

米国で世界最先端の小児ロボット手術を学ぶ

最近、日本でも多く行われているロボット支援手術ですが、小児外科領域ではあまり一般的ではありません。一方、Nationwide

Children's Hospitalには、小児ロボット手術センターがあり、世界最多の年間150例を行っています。私は、クリニカルフェローとして、その多くに携わらせていただいています。また、ロボット手術に限らず、新生児手術を含む、多岐に渡る小児外科手術にも参加する機会をいただいています。日本ではまだ行われていない手術方法を一つでも多く習得し、持ち帰りたいと思っています。

世界中の病気の子供たちを笑顔にしたい

私には、一生をかけて実現したい夢があります。それは、「世界中の病気の子供たち、その家族を笑顔にすることです。そのため

に、最高の医療を世界中の子供たちに提供したいと思っています。なぜなら、病気を持つ子供の親は、たとえどんな環境にあろうと、自分の命や健康に代えてでも、我が子に世界で一番の医療を受けさせてあげたいと願うものだからです。最先端の医療は、日本や欧米諸国を含む、先進国だけのものであってはならないのです。

昨年、徳島を拠点に活動する国際協力団体TICCOの協力で、ザンビア大学小児外科で3週間の手術支援を行い、ザンビア僻地での巡回診療にも参加しました。日本であれば救命できるはずの患児が重症化したり亡くなったたりするケースに遭遇し、日本とザンビアの間で埋めなければならぬ医療水準のギャップの大きさを実感し

ました。

"Global (global + local) system"の創出

そんな夢の実現のために、「世界に学び、地域で実践し、世界に還元する」のスローガンのもと、海外留学、地域医療、国際協力を一本の線で繋げた医療システムを、一生をかけて構築したいと思っています。途方もない夢のようですが、医療従事者の一人一人が、この大きな流れを意識することで、世界中の患者さんが一人でも多く幸せになることを切に願っています。



大学生における学生定期健康診断の位置づけ

キャンパスライフ健康支援センター 保健管理部門
西尾 よしみ (にしお よしみ)

今年4月5月に行われた、学生定期健康診断は、皆さん受診されたでしょうか？

キャンパスライフ健康支援センターでは、「学校保健安全法」に基づいて、在籍するすべての学生を対象に毎年学生定期健康診断を実施しており、学生はその健康診断を毎年受けることになっていま

す。定期健康診断は、病気の早期発見(スクリーニング)・早期治療だけでなく、自分の健康状態を客観的に把握し、健康の維持増進のために日常生活を見直す良い機会です。

大学生は、他の年代に比べて、病気にかかる率が比較的低い年代で、一般に極めて健康な時期と言われ、健康に対する関心は薄れがちです。しかし、生活リズムを崩しやすく、偏った食生活、喫煙・飲酒デビューなどにより、大学生は生活習慣病の入り口であるといえます。さらに、生活環境の著しい変化の中で、不健康と感じている人が多いという現実もあります。若い頃からの生活習慣に原因が求められる、生活習慣病は、今こそ悪い生活習慣を是正すること、予防が可能です。

また、感染症である「結核」の早期発見・蔓延防止も大変重要で

す。自らの健康作りにも、定期健康診断を積極的に活用してください。

〔定期健康診断を受けなかった場合の支障〕

●定期健康診断を受診しなかった場合、結核・心臓疾患・腎臓病・甲状腺疾患・糖尿病など、自覚症状のない慢性疾患の発見が遅れて、学生生活に支障をきたしたり、就活時に最良の健康状態で活動できなくなることがあります。インターンシップや留学、就活の際に必要なものが、健康診断結果となります。就活の場合は、エントリースシートと健康診断結果が求められることが当たり前です。

●各種健康診断証明書(就活用、奨学金、各種資格取得、アルバイト用)や、競技会のための診断書は、定期健康診断を受診していない場合は、発行できません。

●毎年の受診が義務づけられているので、前年度の健康診断結果を使用している場合は、原則としてできません。

〔定期健康診断を受けられない場合〕

●原則的には、指定された日に受けて下さい。どうしても受けられ

ない場合、事前にキャンパスライフ健康支援センターに申し出て、相談してください。

〔定期健康診断の結果とその後について〕

徳島大学ホームページ内の「学生定期健康診断結果参照システム(学内限定)」より、参照できるので、結果を確認しましょう。「異常なし」でも、健康に全く問題がないと判断するのは間違いであり、「異常なし」は健康であることの証明ではなく、今回の検査では異常が発見されなかったということにすぎません。毎年、定期的に健診を受けて自分の健康状態をチェックし、生活習慣を振り返る機会としてください。

健康診断の結果、異常値がでた場合、再検査の指示をしますので、指定日時に来所してください。なお、指定日時に来所できない場合は、放置せず、キャンパスライフ健康支援センターまで連絡してください。

健康診断の結果に対しては、保健管理部門の医師が検討し、必要な方には再検査や精査・加療のための医療機関の紹介や保健指導などの事後指導を行います。

読者の言葉

教養教育院の役割がとても大事だという事を感じるこの頃です。ぜひ、特集をして欲しいと思います。

ご愛読いただきましてありがとうございます。今回の「徳島大学創立70周年」を記念しました特集のように、「とくtalk」では、毎号特集記事を組んでおりますが、次号(178号)では、平成28年4月に全学的な組織として設置されました「教養教育院の役割」についての特集記事を掲載することを予定しております。今後も、徳島大学のさまざまな情報を発信するとともに、できる限り読者の皆様のご希望に沿えるような特集記事も掲載して、より充実した広報誌にしたいと考えておりますので、ご意見、ご感想やご希望をお寄せいただければと思います。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。